

## 10月のねらい及び今月の各クラスの自己評価・自己評価を踏まえての改善点・保護者と地域への子育て支援

月のねらい	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自然に触れて遊ぶ。(虫捕り・草花遊び・園外保育など。)</li> <li>・友達と関わりながら遊ぶ。(集団遊び・ハンカチ落とし・鬼ごっこ・サッカー遊びなど。)</li> </ul>
-------	--

クラス名	年長児(さくら組) 川	年中児(うめ組) 川	年少児(たんぽぽ組) 川
自己評価	行事に楽しく安全に参加するために話をよく聞いて行動する事を繰り返し知らせていった。個人差があり、みんなでということには苦戦した。集団性を高め、仲間と共に楽しむ喜びを味わえるように一人一人の理解を求める事、また、子ども達自身がもしも近くに困っている子、話に対する理解と集中力に困り感を抱えている子がいた時には働きかけて、助け合う大切さを知らせていった。また、散歩を日課として取り入れて自然に触れて遊ぶことが出来た。	運動会後から身体を動かして遊ぶ事(運動遊び、集団遊び)に意欲的に取り組む姿が見られた。食後に園庭遊びを取り入れ、「戸外で遊べるという」楽しみがある事で食も進んでいた。保育教諭が一緒に行い、短い時間でも継続して行う事で少しずつルール知り、覚えて遊びを展開していた。また戸外散歩も他のクラスと協力し、異年齢児の交流を行いながら、自然の中で様々な物に触れたり、見たりする事ができた。	友達とのかかわりの中での何気ない事に目を向け、繰り返し繰り返し、丁寧に知らせていく、関わっていくようにする。言葉や言い方についてがほとんどで、「ほか」「きらい」「うるさい」…等々…覚えて、口にしたい、言いたい時期だという事も理解しながら、クイズ形式で、言われたらどんな気持ちになるか、どう言われたら嫌な気持ちにならないか…一緒に考え、実行していくようにする事で、子どもの思いも聞けるし、子ども自身も自分の思いを発信できる場になっているように感じる。
自己評価を踏まえての改善点	話を聞く時は相手の顔を見る事、理解出来たら元気よく返事をする事がまだ難しいため、出来るように援助していききたい。話の途中で話し出そうとすることは減り、最後まで聞く意識は高まってきている。そのため、なぜその行動が大切なのかを知らせ、やってみたくなるような援助を続けていききたいと思う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「負けるのが悔しいからやらない」、「鬼嫌だからやらない」という初めから諦めて参加できずにいる子もいる。その子が「やってみよう」と思えるような雰囲気作り、環境設定、声掛け等を工夫してクラスで取り組んでいけたらと思う。</li> <li>・戸外散歩、体力がない子もおり疲れやすい。継続して行い体力をつけていききたい。</li> </ul>	今後、繰り返し、人の気持ちも考えること、知らせながら、一緒に考えていききたい。また、発信する人のみではなく、聞く方も知らんぷりしない事や、聞こうとする姿も知らせていききたい。そして、自分の思いを話しやすき環境づくりにも努めていききたい。
保護者と地域への子育て支援	先月に引き続き、園生活上で上手くいった事、葛藤している事等を丁寧にやり取りしていき、支援方法を共に考えていききたい。また、11月は就学時健診への参加もあるため、就学に向けての必要な援助も改めて考えて家庭と連携していききたい。	継続して成長している所や今頑張っている事などをお帳面や口頭、クラス便り等で知らせていく。保護者と共有していき、より良い援助等を一緒に考えていけたらと思う。	お家での様子もお帳面で聞きながら、園での関りも伝え、何が最善の関わりなのか、一緒に考え、実践していききたい。
クラス名	2歳児(すみれ組) 川	1歳児(ふたば組) 川	0歳児(つぼみ組)
自己評価	秋の自然に触れる事を楽しめるように、天気の良い日は散歩に出掛ける。散歩ロープを使わず、友だちと手を繋ぎ歩くことを楽しみながら、歩く距離を伸ばしていけるように心掛けた。歩き疲れる子もいるが、少しずつ歩けるようになってきている。又、土手を登ったり坂道を歩いたりしながら足腰を強くしていけるようにしていた。すこしづつだがしっぽ取り等集団遊びに取り組んでいる。	衣服の着脱や手洗いなど、簡単な身の回りの事も自分でやろうとする姿が多く見られるようになり、十分に寝ることで自信や意欲が育ってきているように感じる。	
自己評価を踏まえての改善点	体を動かす楽しさを感じられてきている為、楽しみながら色々な動きを楽しめるようにしていきたい。出来る楽しさを感じる反面出来ない悔しさ、恥ずかしいという気持ちが芽生えてくる。一人ひとりの気持ちに寄り添いながら、意欲を引き出せるような丁寧な関わりを心掛けていく。集団遊びを取り入れ、集団で遊ぶ楽しさを感じられるようにしていきたい。	一人一人の育ちを理解し、言葉の掛け方や援助のタイミング等を見極めるなど、今後も丁寧な関わりを心掛けていく。「自分で」という気持ちを大切にしながら次への意欲を育て、できることを増やしていきたい。	
保護者と地域への子育て支援	園で挑戦している事、自分でしようとしている姿をお帳面等を通して伝え、成長している姿や取り組んでいる姿と一緒に喜び合えるようにしていく。出来るが増える一方でいやいやしてみたり、甘えたい気持ちが強くなっている子がいるため、保護者の悩みや心配事などが無いかなと、園でも様子を伝えながら引き出ししていけるようにし、連携を取れるようにしていく。	子どもの育ちや園での姿をクラス便りやお帳面等で伝え、共に成長を喜び合い、同じ歩幅で進めていけるよう発信していく。	